

わたしたちの三島村



竹島



硫黄島



黒島



村営船「みしま」

三島村教育委員会

はじめに

私たちの三島村は、竹島・硫黄島・黒島という三つの島からなり立っています。村の役場は海をへだてて鹿児島市にあります。

これらを結ぶ交通網は、週3回運航される村営船「みしま」しかありません。ですから、自分たちの村について、あまり知らない人が多いように思います。

3年生の社会科では、「自分たちの市や町や村」を中心に勉強することになっています。三島村の自然や人々の暮らし・仕事のようにすなどを自分の目で観察したり地図や資料などで調べたりします。また、ほかの市や町や村の人々の暮らしや仕事のちがいを調べる勉強もします。「なぜ、そのようになっているのだろうか」「これとあれとは、どのような関係があるのだろうか」というように、問題をもってその意味を考えることがだいじです。

4年生では、わたしたちの村の「人々の健康や安全な暮らし」と、「これからの三島村」についてのことなどを勉強します。

この本は、そのような勉強に役立つようにつくられた社会科副読本です。村内の多くの先生方のご協力と、三島村役場や教育委員会のおせわでできあがりました。このかたがたに感謝するとともに、みなさんがこの本を使って、三島村のことをよくわかり「いきいきとして明るく豊かな三島村」にするにはどうしたらよいかを考え、「ふるさと三島」を愛する人間に成長されるよう祈ります。

平成16年3月

三島村教育委員会教育長 長深田 悟

3年生の社会科の学習

3年生の社会科では、つぎのようなことを学習します。

- ① 自分たちの学校のまわりのようすや村ぜんたいのようすについてしらべる。
- ② 自分たちの校区にすんでいる人びとは、どんな仕事をしているか、また、わたしたちのくらしとどんなつながりがあるかしらべる。
- ③ ほかの校区の人びとはどんな仕事やくらしをしているか、そして、わたしたちの校区の人びとの仕事やくらしとのちがいはどうかをしらべる。

4年生の社会科の学習

4年生の社会科では、つぎのようなことを学習します。

- ① 三島村では、わたしたちがけんこうであんぜんなくらしをするために、どんなくふうをしているか調べる。
- ② 人びとはくらしをよくするために、どんなことをくふうし、どりよくしているか調べる。
- ③ わたしたちのくらしをゆたかにするために、三島村はどのようにうつりかわってきたかを調べる。
- ④ 鹿児島県の土地のようすや伝統工業について調べる。

学習のじゅんじょ

つぎのようなじゅんじょで、自分でしらべたり、みんなで話し合ったりしながら、学習をすすめましょう。

- ①新しいないように入ったら、教科書をもとに、どのような学習をするか、学習のめあてや学習のもんだいについて話し合う。
- ②学習のすすめかたや学習をすすめるためにどんな方法でしらべたらよいか話し合う。

しらべる方法：

インタビュー，アンケート，本，インターネットなど

- ③話し合ったことをもとに、場所やたてものなどのようす、はたらく人たちのくふうやねがい、その場所のつかわれかたなどについてしらべる。
- ④しらべて分かったことを絵や図に表したり、表にかいたり、ノートにまとめたりする。
- ⑤しらべて分かったことをもとに、発表をする。

もくじ

社会科の学習

学習の順序

一 わたしたちのすんでいる三島村

1 わたしたちの校区

2 三島村のようす

(1) 村ぜんたいのようす

(2) 竹島のようす

(3) 硫黄島のようす

(4) 黒島のようす

3 三島村のいろいろなしせつ

(1) 村役場

(2) 役場の出張所

(3) 三島村開発総合センター

(4) しんりょう所

(5) ヘリポートと飛行場

二 三島村の人びとの仕事とくらし

1 三島村のしごとのようす

(1) 商店がいのはたらき

① 三島村の商店のようす

② 鹿児島市のスーパーのようす

(2) のうぎょうのようす

① 米づくり

② さつまいもづくりと野さいづくり

(3) ちくさん業のようす

(4) 漁業のようす

(5) 林業のようす

(6) たけのこ工場のしごとのようす

(7) りょかんみんしゅくの仕事のようす

(8) その他の仕事のようす

三 くらしを守る

1 火事をふせぐ

(1) わたしたちの身をまもるためのせつび

(2) 消ぼう団

2 事こをふせぐ

3 風水がいをふせぐ

4 安心してくらせる村に

四 住みよいくらしを支える

1 ごみのしまつと利用

2 水道とわたしたちのくらし

五 かわってきた三島村

1 学校のむかしと今

(1) 学校のうつりかわり

(2) 100年ぐらい前の学校のようす

(3) 50年ぐらい前の学校のようす

2 くらしのうつりかわり

(1) 古い道具調べ

(2) おじいさんの話

(3) 三島村のむかしさがし

① しせきやきねんひ

② 行事やまつり

◎ 黒島流れと三島村

(4) 三島村のうつりかわり

① 三島村の人口

② 船のうつりかわり

3 これからの三島村

4 三島村のあゆみ（年表）

監 修

三島村教育委員会 教育長 長深田 悟

執筆・編集委員

竹島小学校	教諭	名越 秀人
竹島小学校	教諭	福満 健二
三島小学校	教諭	白田 実
三島小学校	教諭	福田 秀樹
大里小学校	教諭	前田 兼俊
片泊小学校	教諭	松元 祐一
片泊小学校	教諭	久保 陽子

顧問

片泊小学校	校長	森元 康秀
三島村教育委員会	社会教育指導員	日高 豊治

資料提供 三島村役場

わたしたちの三島村

昭和 5 8 年 3 月 (初版)

昭和 6 3 年 3 月 (二版)

平成 6 年 3 月 (三版)

平成 1 6 年 3 月 (四版)

発行 三島村教育委員会

責任者 長深田 悟

ー わたしたちのすんでいる三島村

1 わたしたちの校区

これからわたしたちの校区のことを学習します。

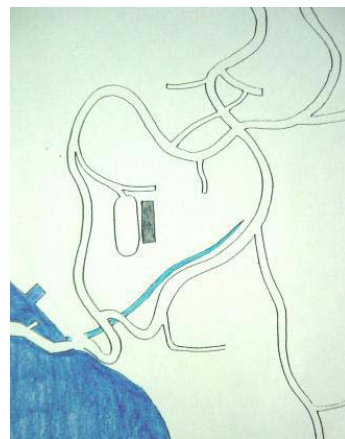
校区のようすを見わたせる高いところに登って、かんさつしてみま
しょう。

〈かんさつすること〉

- ・ 東，西，南，北の方位にはどんなものがありますか。
- ・ 自分の家は，どの方位にありますか。
- ・ 自分の家は学校から見てどの方位にありますか。

〈絵地図づくり〉

- ・ かんさつしたことをもとに，学校を中心にした絵地図を作りましょ
う。
- ・ 教科書や写真，絵地図などもさんこうにしましょう。



竹島小中学校校区



三島小中学校校区



大里小中学校校区



片泊小中学校校区

2. 三島村のようす

（1）村全体のようす

わたしたちのすんでいる三島村は、竹島・硫黄島・黒島の3つの島からできています。鹿児島^{かごしま}のみなとから南へおよそ100キロメートルのところにあります。天気の良いときには、種子島^{たねがしま}、屋久島^{やくしま}などのほかの島々や開聞岳^{かいもんだけ}などが見えます。

三島村役場のある鹿児島市^{かごしま}と三つの島をむすんでいるのが村営船『みしま』です。

三島村の人たちは、自分たちの島だけでなく、ほかの島や鹿児島市などともふかいかわりをもって生活をしています。



村営船『みしま』



三島村の場所

（２）竹島のような

竹島は、その名のとおり、島全体が竹におおわれた島です。竹のしゅるいは、リュウキュウチクといいます。（村では、「大名竹」と言っています。）



全体が竹におおわれた竹島

竹島は、三島村の三つの島の中で、もっとも小さい島で、まわりはおよそ１０キロメートルほどです。

高い山はなく、木のしゅるいも多くありません。「井がわ」という水のわき出すところがありますが、川が一つもないので田んぼはありません。畑の多くには、ぼくそうがうえられています。

海岸のほとんどは急ながけになっていますが、魚がつれるよいつり場がたくさんあります。



竹島の地図

(3) 硫黄島いおうじまのようす

硫黄島は、まわりがおよそ15キロメートルあります。三島村の3つの島のまん中にあります。島には、今でもふん火している硫黄いおう岳だけがそびえています。また、島の東がわには、1934年（昭和9年）の海でのふん火でできた昭和しょうわ硫黄島いおうじまもあります。



硫黄岳

硫黄岳は今もけむりをあげているので、そのにおいやはいがときどき村の人たちをなやませます。やさいや花などがかれてしまうこともあります。

島には温泉がたくさんわいていて、島の人たちやかんこう客によろばれています。火山や温泉などのえいきょうで海がみどりや茶色になっています。

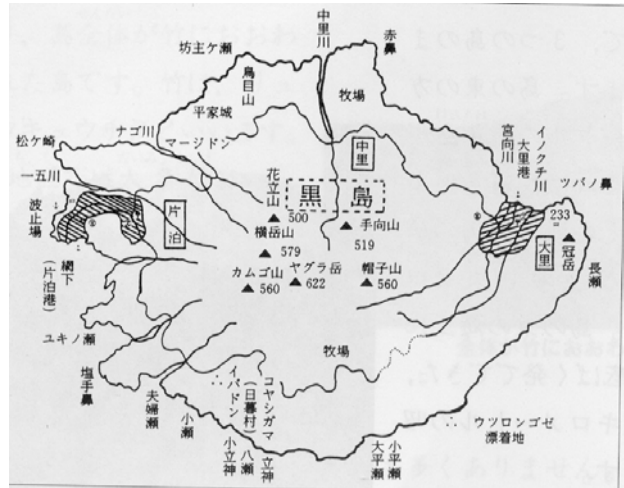
硫黄島には川や田んぼがなく、みなとのまわりには平らな土地がひろがっています。



東温泉

（４）黒島のように

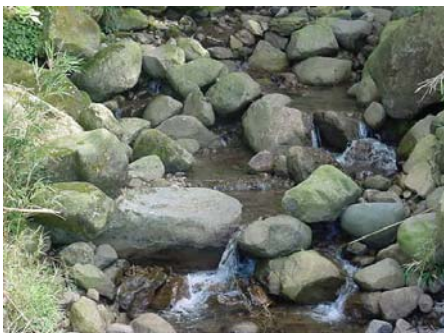
黒島は、島全体に木がたくさん生えていて黒く見えるので「黒島」と名づけられたと言われています。三つの島の中で一番大きく、島のまわりがおよそ１５キロメートルあります。島のまん中には６２２メートルの高さの^{やぐらだけ}櫓岳のほか、５００メートルより高い山が６つもあります。たいらな所が少ないのもこの島のとくちょうです。



黒島の地図

黒島には、ほかのところではあまり見ることはできないめずらしい植物がたくさんあります。また、ヤツガシラやカラスバトなど、いろいろな野鳥をかんさつすることもできます。動物ではイタチがいます。イタチは、ねずみをたいじするために、島にはなしがいにしたのがふえたのです。

黒島には川がたくさんあります。小川まで入ると千ぐらいの川が



黒島の中里川

あると言われます。黒島の川の水は、いつも流れているので、水道の水として用されています。ほかにも、まき場では牛の水のみ場にり用されるなど、人々のくらしに大へんやくだっています。

3 三島村のいろいろなしせつ

三島村には、村民のよりよい暮らしをねがって作られたいろいろなしせつがあります。

(1) 村役場^{やくば}

三島村の役場は鹿児島市にあります。役場では、村の人びとが住みよい暮らしができるように仕事をしています。また、村のことを話し合う村



村役場

議会^{ぎかい}の議場^{ぎじょう}や、学校などの世話をする教育委員会の事務局も役場の中にあります。

(2) 役場の出張所^{しゅつちやうじょ}

それぞれの校区には、役場出張所があります。出張所は鹿児島市にある役場とほとんど同じ仕事をして



役場で仕事をしている役場の人

います。また、役場からのお知らせやいろいろな調査^{ちやうさ}、船や荷物の世話もしています。校区にある村のしせつのお世話もしています。

身のまわりで行われている村役場の仕事をくわしく調べてみましょう。

(3) 三島村^{かいほうそうごう}開発総合センター

硫黄島には、「三島村開発総合センター」があります。センターができる前まで、硫黄島には小さな集会室はありましたが、地くの大ぜいの人々が集まって、会を開ける広くて大きなしせつはありませんでした。



三島村開発総合センター

そこで役場は、地くの人たちのねがいをうけて、県や国にしせつづくりについての協力をおねがいしました。そして、1984年（昭和59年）9月に開発センターができました。



三島村開発総合センターにあるへや

地くのセンターたんけん

- ・それぞれの地くのふれあいセンターやふるさとセンター，開発センター，公民館にはどのような部屋があるかしらべましょう。
- ・それぞれのちいきのふれあいセンターやふるさとセンター，開発センター，公民館はどのような人にどのように利用されているかしらべましょう。



(4) しんりょう所

しんりょう所は、人々のけんこうを守るとても大切なはたらきをしています。おいしやさんがいないときもかんごしさんがテレビ電話でそうだしながらちりょうをしています。また、鹿児島赤十字びょういんの先生が3ヶ月交たいで三島村に来てくださり、それぞれの地くのしんりょう所を月2回ぐらいずつ回ってくださいます。急なびょう気や大けがは、^{じえいたい}自衛隊や鹿児島県のヘリコプターでびょういんにはこんでもらっています。



しんりょう所



ヘリコプターで運んでいるところ

(海上自衛隊鹿屋航空基地ホームページより)

しんりょう所についてしらべましょう

- ・ しんりょう所にはどのようなきかいやものがあるのかしらべましょう。
- ・ しんりょう所には何人ぐらい人が来るのかしらべましょう。

（５）ヘリポートと飛行場

ヘリポートは竹島，大里，片泊に，飛行場は硫黄島にあります。急な病気にかかった人や大けがをした人をヘリコプターや飛行機ではこんでもらうためのしせつです。



三島村の飛行場やヘリポート

ヘリポート，飛行場をしらべましょう

- ・ヘリポートや飛行場が，それぞれの島のどこにあるかしらべましょう。
- ・どんなときにヘリコプターや飛行機がとぶのか，どこからヘリコプターや飛行機がくるのかなどインタビューしてしらべよう。

二 三島村の人びとの仕事とくらし

わたしたちのすんでいる三島村の人びとは、どんなしごとをしているのでしょうか。ここでは、次のことについてしらべます。

- ・ 自分のすんでいる島や村内の人々のしごとのないよう
- ・ それらのしごとをうまくすすめるためのくふうについて



三島村のいろいろなしごと

二 三島村のしごとのようす

(1) 商店がいのはたらき

①三島村の商店のようす

三島村のそれぞれの島には，商店（店）^{みせ}があり，人びとの生活にやくだっています。わたしたちのちかくの商店のようすをしらべてみましょう。



三島村にある商店のようす

自分の島の商店をしらべましょう

- ・ 自分の島にはいくつ商店があるかしらべましょう。
- ・ 自分の島の商店にはどのようなものが売っているのか調べましょう。
- ・ 商店に売っていないものはどうしているのかしらべましょう。

② 鹿児島市のスーパーマーケットのようす

三島村の店に売っていないものは鹿児島の店で買うことになります。

スーパーマーケットではいろいろなものを売っています。スーパーマーケットはたくさんの品物を売るために、どんなくふうをしているのでしょうか。



鹿児島のスーパーマーケットの様子

スーパーマーケットをしらべましょう

- ・ スーパーマーケットにはどのようなものが売っているのかしらべましょう。
- ・ スーパーマーケットではおきやくさんに品ものを買ってもらうためにどんなくふうをしているか考えましょう。



（２）のうぎょうのようす

①米づくり

三つの島で、水田による米づくりができるのは、黒島だけです。黒島には川が多く、水がたくさんあるからです。

むかし、黒島には、たくさんのお水田がありました。しかし、今では、水田は少

ししかありません。また、お正月のしめなわを作るときに使うワラをとるためにりくとう（畑でつくる米）を作っているところも少しあります。



黒島（大里）にある水田

②さつまいもづくりと野さいづくり

ほとんどの家では、さつまいもや野菜づくりをしています。

さつまいもは3月にいもどこを作って、たねいもを植えます。たねいもから出たつるを5月～6月に切り取り、畑に作ったうねに植えこみます。夏休みのころ、草取りや肥料や利などをして10～11月ごろとり入れます。そして、いもがまといって、畑やたけやぶなどにあなをほり、たくわえます。

たくわえたいもは、春ごろまでに食べたり、おくりものにしたり、なえ作りのたねいもとして使ったりします。

また、どこの家でも自家用として、しまきゅうりやにがうり、大根などの野菜を作っています。どの畑も竹がすぐにはえるので、畑のまわりに深いみぞをほり、竹の根が畑に入りこまないようにしているとところもあります。



いもをほぞんしている畑



野さい畑

(3)ちくさん業のようす

三島村が力を入れている仕事の一つに、牛をかう仕事があります。三島村は温だんな気こうで牧草がよく育ちます。このような自然のめぐみをうまく利用したちくさん業を村の



牛のお産

大きな^{さんぎょう}産業にしようとしているのです。

牛をかう仕事は、仕事の内容によって2しゅるいの^{のうか}農家に分けられます。1つは、元気な子牛を産ませて、その子牛を売る^{せいさん}生産農家、もう1つは、買ってきた子牛を大きく育てて売る^{ひいく}肥育農家です。三島村では、ほとんどが生産農家です。硫黄島では^{のうさん}農産会社、竹島と黒島ではそれぞれ^{ちくさんしんこうかい}畜産振興会を作り、よい牛を育てるためにきょう力して仕事をしています。村内では、およそ50戸の農家が牛をかっています。



牧場のようす

牛をかう仕事には、広い土地が必要です。村からのほ助で竹林をばっさいし、^{ほうぼく}放牧場や牧草地を作っています。

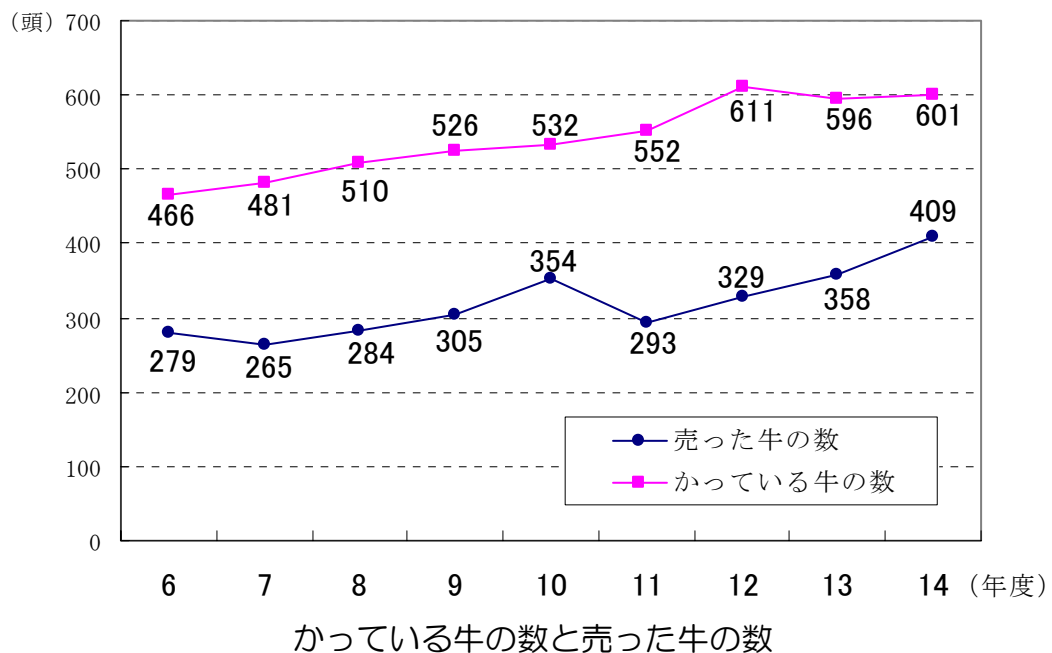
牛を飼っている農家では、毎日牛にえさをあげたり、牛しゃのそうじをしたりしています。また、牧草を育てたり、害虫や病気から牛を守ったりしています。そのほか、牛を牧場から別の牧場へうつしたり、牧場のさくを直したりしています。

月2回「牧場の日」を決めているところもあります。この日は、ほかの仕事を休んで、どの家からも一人ずつは、牧場の仕事に出るようになっていきます。

農家では、生まれてから10ヶ月ほど育てた子牛を島外へ売りに出します。市場でせりにかけるので、売りに出すときによって値段が変わります。



牛の出荷のようす



（４）漁業のようす

三島村のまわりには、たくさんの魚がいます。みなともよくなり、魚のとり方もくふうされてきました。とった魚を入れるためのれいぞう（れいとう）庫や、生きたまま魚を入れて置ける活魚そうもあります。また、村営船「みしま」で、しんせんな魚を送ることができます。とった魚のほとんどは、鹿児島島の市場へ送られています。とくに、イセエビのとれるじきになると、４つのみなとからイセエビが生きたまま送られます。



漁業についてしらべましょう

- ・島のまわりでどのような魚がどれくらいとれるのかしらべましょう。
- ・どのような方法で魚をとっているのかしらべましょう。
- ・イセエビが島のまわりからいなくならないように、どのようなくふうをしているのかしらべましょう。
- ・りょうしの人たちのくろうや、魚をとるためのくふうについてしらべましょう。

（５）林業のようす

三島村には、さまざまな林産物（森や林からとれるもの）があります。なかでもたけのこやつばきなどがよくとれます。

硫黄島には、古くからつばきがたくさんはえていました。その実をとって鹿児島県内の工場におくり、つばき油を作っています。

また、三島村でとれる「大名だけ」とよばれるたけのこはふつうのたけのこにくらべやわらかく、味も良いので、鹿児島市や全国におくられています。

三島村では、これらの林産物をたくさんの人に知ってもらうために、役場やみしまの売店などにおいてあります。また、鹿児島県内や鹿児島いがいの場所でもせん伝をして、たくさんの人たちに買ってもらえるように努力しています。

三島村の林産物はおみやげとしても大へんよろこばれています。



林業をしらべましょう

- ・ 自分の島で、どんなじきにどんなものがとれるのかしらべましょう。
- ・ つばきやたけのこなどをとるために、どのようなくろうがあったり、くふうをしたりしているのかしらべましょう。

（６）たけのこ工場のしごとのようす

三島村にはたくさんのたけのこがはえています。このたけのこは、やわらかくて味がよく、鹿児島県内や鹿児島いがいの場所でも売られています。

たけのこがとれるのは、５月の末から６月の末までです。

とったたけのこは、たけのこ工場へ運ばれます。工場では、機会も使われていますが、人の手でしなければならないところもたくさんあり、島の人たちがこうたいではたらいています。たけのこは、島の人たちや村にとって大切な収^{しゅうにゅう}入^{にゅう}の一つです。



たけのこの工場のようす

たけのこ工場をしらべましょう

- ・たけのこ工場の仕事のじゅんじょをしらべてみましょう。
- ・たけのこをとる人たちや、工場ではたらく人たちのくろうや、仕事のときのくふうなどについてしらべましょう。
- ・工場で、どのようなきかいがつかわれているかしらべましょう。

(7) 旅館・民宿の仕事のようす

わたしたちの三島村は、うつくしい自然が多いので、かん光におとずれる人がいます。また、仕事で来る人も多いため、それぞれの島には民宿があり、今は三つの島を合わせて 14 件の民宿があります。

民宿では、三島村にやって来る人びとが楽しい思い出をつくれるように、いろいろなくふうをしています。



民宿のようす

民宿のことをしらべましょう

- ・ 民宿にはどんな仕事があるのかしらべてみましょう。
- ・ 民宿の人はどんなくふうをしているのかしらべてみましょう

（８）その他の仕事のようす

①発電所

黒島には，発電所が大里地区にあり，黒島（大里と片泊）の２０４軒に電気を送っています。

発電所のおもな仕事は，それぞれの家に電気を送ること，電気をつくるきかいが止まらないように注意して見ておくこと，それぞれの家へ行って，どのくらい電気を使ったかメーターをはかり，電気代を集金することです。また，黒島には全部で５３１本の電柱があるので，それを点検するのも大切な仕事です。

黒島発電所では４人の人がはたらいています。２４時間ずっと電気を送るために，交代で仕事をしています。また，台風や大雨のときには，４人とも発電所に来て，電気が止まらないように，みんなで仕事をしています。

電気は今の生活になくてはならない大切なものなので，いつも４人で協力して仕事をするようにしています。

発電所の仕事についてしらべましょう

- ・じっさいに発電所にしらべに行ってみましょう。



黒島発電所のようす



電気をつくるきかい

②けんせつぎょう

三島村の四つの地区には、それぞれけんせつ会社があり、道路や港をきれいにしたり、村えい住宅をたてたりする仕事をしています。

けんせつ会社ではたらく人は、それぞれの地区にすんでいる人と鹿児島などか



工事をしているようす

らはたらきに来る人がいます。鹿児島などからはたらきに来る人たちのためには、^{しゆくしゃ}宿舎という、みんなできょうどう生活をするしせつがあります。

○ けんせつ会社ではたらく人にインタビューしました。

わたしは、黒島の会社に来てから1年になります。今の仕事は、新しい道ろをつくることです。外での仕事なので、夏のあつい日や冬のさむい日はとてもたいへんです。また、道ろをつくるためのとくしゅな車を運でんしないといけないので、安全にはとくに気をつけています。しかし、仕事が大へんなぶんわたしたちがつくったものがかんせいすると、とてもうれしいです。早く新しい道ろを村の人たちに使ってもらえるようにわたしも仕事をがんばっています。

三 くらしを守る

1 火事をふせぐ

(1) わたしたちの身をまもるためのせつび

火事は、家や家ぐだけでなく、わたしたちの大切な命もうばってしまいます。わたしたちは火事を出さないように、ふだんから気をつけていなければなりません。しかし、火事は、ちょっとしたゆだんからおこります。そのようなときのために、わたしたちの身の回りには、いろいろなせつびがととのえられています。



わたしたちの身をまもるせつびをしらべましょう

- ・ 学校や地いきには、わたしたちの身をまもるために、どのようなせつびが、どこにじゅんびされているのかしらべましょう。
- ・ それぞれのせつびは、どのような役わりをはたすのかしらべましょう。

（２）消ぼう団

わたしたちの村で火事がおこったとき、一ばん早くかけつけてくれるのが消ぼう団です。消ぼう団の人は、ふだんは自分のしごとをしています。火事や地しんなどを知らせるサイレンが鳴ると、仕事をやめて、すぐにかかけつけます。そして、火を消したり、小さい子どもやお年よりが、安心してにげることができるように手助けしたりしてくれます。



学校での防災訓練

また、日ごろから消火くんれんやポンプの手入れ、消火せんやぼう火水そうの見回りもしています。



消防団が使う道具

消ぼう団をしらべましょう

- ・ 消ぼう団のしごとや、しごとで大へんなことについてしらべましょう。
- ・ 自分たちが、火事をふせぐために気をつけなければいけないことを消ぼう団の人に聞いてみましょう。
- ・ 消ぼう団ではたらく人たちと消ぼう所ではたらく人たちの仕事の

ちがいをしらべましょう。

2 事をふせぐ

わたしたちの村は，鹿児島市などに比べると，交通量は少ないですが，自転車やオートバイ，自動車を使っている人も多く，いつ事にまきこまれるかわかりません。



学校での交通しどう

けいさつでは，事こがおこらないように，学校や地いきでふだんから交通しどうを行っています。もし，交通事こがおこった時には，けいさつが事このようすや事こを起こした人たちについてしらべます。

三島村では，硫黄島にけいさつのちゅうざい所があつて，ここのけいさつかんが三つの島をまわり，事こやはんざいをふせぐためにはたらいています。

けいさつのしごとをしらべましょう

- ・ けいさつかんは，事こやはんざいがおこっていない時は，どのような仕事をしているのかしらべましょう。
- ・ 事こやはんざいがおこってしまった時，けいさつかんはどのようなしごとをするのかしらべましょう。
- ・ 警察の仕事で大変なことや，仕事をしていてよかった思うことを聞いてみましょう。
- ・ 事こやはんざいにわたしたちがまきこまれないためには，どのようなことに気をつければよいか，けいさつの人に聞いてみましょう。

3 風水がいをふせぐ

夏から秋にかけて，台風はわたしたちの村にしばしばひがいをもたらします。

台風がそれほど島のそばを通らない時でも，強い風のため，海では波が高くなり，村営船「みしま」が何日もこう海できないこともあります。



台風のような

台風が島に近づいたときは，高い波で，道路や家，船などがこわれてしまうことがあります。

また，強い風で屋根がふきとばされ，たてものがたおれたり，電線がちぎれ，てい電になったりすることもあります。

風水がいをふせぐために

- ・ 台風のひがいをふせぐために，家やちいき，村がしているくふうや仕事を調べてみましょう。

4 安心してらせる村に

わたしたちが安心してくらすために、村ではどのようなことをしているのか調べてみましょう。



ヘリポート



がけくずれを防ぐためのネット



さぼう
砂防ダム



新しいていぼう作り



ぼうさいむせん
防災無線



やく
薬ざいさんぽ

安心してらせる村にするために

- わたしたちが安心してくらすために、どのような村づくりをすすめていけばよいか、みんなで考えてみましょう。

四 住みよいくらしを支える

1 ごみのしまつと利用

わたしたちの家から出るごみには、どんなしゅるいがあるでしょうか。また、ゴミの量はどのように変わってきているのでしょうか。

むかしは、家からごみが出ると言っても、台所の生ごみやわらくず、木くずなどがほとんどでしたし、その量も少なかったので、あなをほってうめたり、台所からそのまま流したり、川や海にすてたりしていました。

ところが、生活のようすが変わってきたので、家から出るごみの量もひじょうにふえ、しゅるいも多くなりました。これらのごみを、今までのようにすてていたのでは、くさってにおいがしたり、ハエやネズミがふえたりしてこまります。また、食べ物などをつつんであるパックやビニルぶくろ、ビニルひも、プラスチックなどは、もやすと黒いけむりをだして体に^{がい}害も多いのです。ビニルやプラスチック・あきかん・あきびん・そ大ごみ（テレビや冷ぞう庫などのこわれたもの）などは、すてるといつまでもくさらないし、海をよごし、^{きけん}危険です。こうした問題は、どこの地区でもありました。

そこで、人びとは、ごみのしまつについてどうしたらよいか相談しました。役場やほけん所でも、ごみ集めの問題をしんけんにとりあげて相談するようになりました。こうして、わたしたちの村でも、ごみ集めが昭和52年ごろから行われるようになりました。集められたごみなどは、人里はなれた、人があまり行かない場所を切り開き、そこへ、自動車で運んですてるようになりました。

今では、地区の人びとの話し合いで決められた係の人におねがいし

て運んでもらっています。毎週、「ごみすての日」を決め、それぞれの家では、ごみをじょうぶなふくろやはこなどに入れて、決められた時間に道路わきのごみステーションに出しておきます。



ごみステーション

ごみは生ごみと、それいがいのごみに分けてすてます。集められた生ごみはしょうきゃくの機械で燃やしますが、それいがいのごみはそれぞれの地区で決められたごみすて場に集められます。

しかし、家庭で出すごみがふえるにつれて、ごみすて場にすてられるごみもどんどんふえていきます。そのため、ハエが集まったり、カ



生ごみしりしせつ

ラスがつついたりして、
ふえいせい
不衛生になっていきます。また、何かのひょうしに火がついて火事が起こる心配もあります。これからは、いかにたくさんのごみをしまつしていくかが大きな問題です。

自分の地区のごみのしまつや、大きな町や市などのごみのしまつを調べましょう。

2 水道とわたしたちのくらし

水道が使われるようになる前の三島村の人びとは、いど水やわき水をくんで生活に使っていました。

昔は、くんだ水をタンゴやバケツに入れて、てんびんぼうでかついで運んでいました。近くにいど水やわき水のないところでは、遠くまで何回も水くみに行かなければなりませんでした。また、だんだんの急な坂をのぼったりおりたりして運ぶなど、ふべんな生活でした。水くみは女の人の仕事でしたが、忙しくなると子どもたちも手伝うなど、大変な仕事でした。

そこで、みんなは、いつでも水が使えるように水道がほしいという願いを持っていました。そして、昭和36年12月に大里、昭和37年3月に竹島、昭和39年3月に硫黄島、昭和40年9月に片泊に簡易水道ができました。そのおかげで、今では、島のほとんどの家に水道が引かれ、いつでもきれいな水が使えるようになって、生活が大変便利になりました。

今の水道は、わき水や川の水などを、
揚水ポンプで配水タンクにためて、しょうどくしてからきれいな水をそれぞれの家に送るしくみになっています。竹島や硫黄島では、川が少ないために地下水をポンプでくみ上げて使っています。また、黒島では日暮川にダムを作って、ためた水を使っています。水道の水は、わたしたちの家だけではなく、学校や出張所、ふれあいセンター、また、牛を飼ったり、作物をさい



ひぐらし
日暮川のダム

ばいするときなど、いろいろなところで利用されています。そして、使う水の量も毎年増えていっています。

三島村では、いつでもきれいな水を利用できるように、もっと水道施設をよくしていくための努力をしています。わた



こうそくろかそうち
高速ろ過装置

したちは、生活にかかすことのできない大事な水を、むだ使いしないように心がけていくことが大切です。

水のしまつ

鹿児島市などのたくさんの下水が流れる所には「下水処理場」^{げすいしよりじょう}があります。そこでは、水の中のよごれをしずめたり、薬を入れたりして、きれいにしていきます。きれいになった水は最後に川や海に流すことができます。下水処理場では流される水のよごれ具合をしっかりとけんさしています。

このようにわたしたちが、ふだんなにげなく使った水の始末についてもいろいろな工夫や施設が必要なことがわかります。

水道のことをしらべましょう

- ・ 水は、わたしたちの生活にとって、なくてはならないものです。
わたしたちが、学校や家庭で使っている水は、どこから、どのようにして送られてくるか、調べてみましょう。
- ・ あなたの地区では使った水はどうなっているか調べてみましょう。

五 かわってきた三島村

1 学校のむかしと今

(1) 学校のうつりかわり

下の写真は、むかしと今の学校の様子です。では、今のようになりっぱな学校になったのはいつでしょうか。また、むかしの学校の様子はどうかだったのでしょうか。年表を使ったり、おじいさん、おばあさんやお父さん、お母さんなどから話を聞いたりして調べてみましょう。

竹 島 小 中		
三 島 小 中		
大 里 小 中		
片 泊 小 中		

大里小・中学校のうつりかわり	
年 代	お も な で き ご と
昭和 5 年	・ ^{こうりつ}公立学校となる。 ・ ^{いおう じまじんじょうこうとう}(硫黄島尋常高等小学校^{ぶんきょうじょう}大里分教場)
昭和 22 年	・ 大里と片泊の学校がいっしょになり黒島小学校ができる。 ・ 中里に硫黄島中学校黒島分校ができる。
昭和 24 年	・ 大里小学校となり，新しい校舎ができる。
昭和 30 年	・ 学校用水力発電所ができる。初めて教室に電とうがつく。
昭和 31 年	・ 大里小・中学校の校歌ができる。
昭和 36 年	・ 学校用火力発電所ができる。
昭和 40 年	・ 鉄きん校しゃ（今の校しゃ）ができる。
昭和 45 年	・ 校章と校旗^{こうき}が決まる。
昭和 46 年	・ へき地集会室（こう堂）ができる。
昭和 47 年	・ 毎日給食がでるようになる。
昭和 51 年	・ 水道がとりつけられる。
昭和 55 年	・ 新しい給食室ができる。
平成 2 年	・ ^{ぎじゅつしつ}技術室が新しくできる。
平成 4 年	・ 校庭全面にしばふを^う植えつける。
平成 9 年	・ しおかぜ^{りゅうがく}留学せいどが始まる。

学校のうつりかわりをしらべ，年表にまとめてみましょう。

（２）１００年ぐらい前の学校の様子（大里小・中学校の例）

このころの学校は、私立
大里尋常高等小学校とい
いました。

この学校は、地区の人た
ちがお金を出し合ってつ
くった学校です。

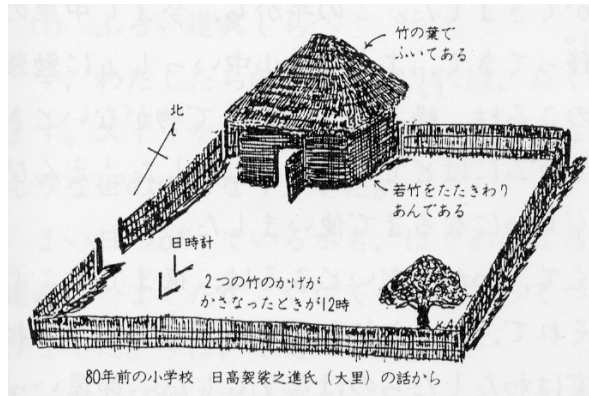
校しやは、たて、横それ
ぞれ６メートルぐらいの

大きさに、ささぶきの校しやでした。ゆか板もあり、つくえや２人が
けのいすもありました。子どもの数は３０人ぐらいでした。初めは男
の子だけでしたが、あとから女の子たちも学校に来るようになりました。

学校の勉強は、「読み・書き・そろばん」でした。１さつの本がよく
読み書きできるようになると、次の新しい本がもらえることになって
いました。それで、早く新しい本をもらおうと、友だちときょうそう
して読み書きを練習していました。

勉強道具は、すみ、筆、石ばん、石ひつを使っていました。服そう
は、長着物だけを着て、おびをしめており、はき物は、自分で作った
わらぞうりかげたをはいていました。

子どもたちは、赤ちゃんの子守をしなければなりませんでした。だ
から、中には赤ちゃんをおんぶして学校に来て、勉強をする人もいま
した。



１００年ぐらい前の学校の様子

（３）５０年ぐらい前の学校の様子

このころは、せんそうが
終わってすぐのころだっ
たので、いろいろなものが
ふそくしていました。学校
へ行くときは、かすりの着
物を着て、わらぞうりをは
き、教科書はふろしきにつ
つんでいました。学用品も
少ししかなかったので、え



昭和２４年の校しゃと子どもたち

んぴつには、竹をつけて１センチぐらいになるまで大事に使っていま
した。また、図書室にある本やじてんは、小・中学生が、夏休みや冬
休みにまきを切り出してかせいだお金やつわを売ったお金で買ったも
のでした。

このころは、給食もなく、家からからいもを持って来て食べていま
した。しばらくすると、牛にゅう（だっしふんにゅう）やパンの給食
がはじまりました。子どもの数が多かったので、パンは子どもたちも
手伝って作っていました。

遊びでは、トンチンカンやこままわし、かんぜ丸などがありました
が、学校から帰ってからはあまりしませんでした。学校から帰ると、
子守や水くみ、麦ひき、夕食のからいもたきなど、毎日決まった手伝
いがたくさんあったからです。お父さんやお母さんは、夜暗くならな
いと畑仕事から帰ってこなかったもので、とてもさびしいものでした。

2 暮らしのうつりかわり

(1) 古い道具調べ

今，私たちの身の回りには，たくさんの電化製品せいひんがあります。スイッチを入れるだけでいろいろなことができます。大変べんりな世の中になりました。

毎日使っている水も，はじめのころは，川の水をタンゴに入れて運んでいましたが，やがて井戸をほってつるべでくみ上げるようになりました。今は水道のじゃ口をひねるだけで，水が使えます。雨の日や寒い日でも，家の中で水が使えるので，大変べんりです。



昔の水タンク

ここでは，みんなの家で使っているだんぼう器具のうつりかわりをおじいさんに聞いてみました。

(2) おじいさんの話

やっぱり，いろりがなつかしいなあ。火がよく燃えているときは家の中全部があたたまったものだよ。あたたまるだけではない。いろりの上から下がっているじざいかぎに，なべややかんをつるしてすいじができたし，炭火があれば，魚やもちを焼くこともできたものだ。それに，家族が同じ所に集まることができたのでとっても楽しいことが多かったなあ。

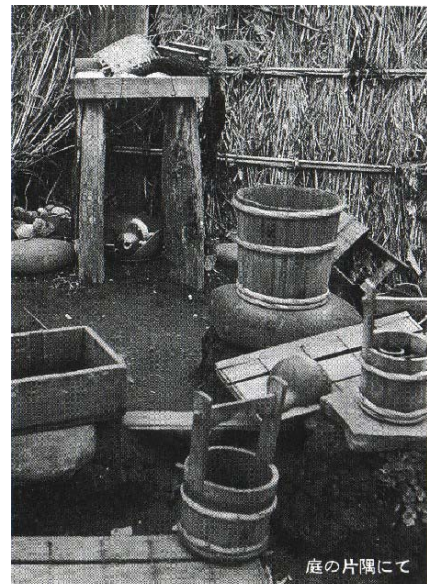
けどなあ，たきぎが燃えないときは，家の中がけむりでいっぱいになって，いろりのそばだけでなく，家のどこにいても，けむたくてけむたくて大変なものだった。

それで、わしが子どものころは、たきぎがよく燃えるようにしておくことが、子どもの仕事の一つだった。大人がわったまきをよく乾くようにしたり，雨が降りそうなときは，かわいたまきを床の下に入れたりしたものだ。

そういえば，いろりのほかにひばちもあった。特別なお客さんのときだけ使っていたから，お客さんが帰った後，子どもたちは先をあらそってひばちにあたったものだ。でも，手や顔だけがあたたまって，足は冷たいままだった。ひばちにあたっているのが見つかりと「子どもは風の子，外で遊べ」と追い出されていたものだ。ほりごたつもあったが，炭火を使ったこたつだった。ひばちとは反対に，足はあたたまったが，手や顔は冷たかった。

30年ばかり前に石油ストーブを使い始めた。それまでは，いろりにたきぎをつぎ足したり，炭をつぎ足したりして，大変めんどろだった。石油ストーブは空気のいれかえはしなけりばならんが，いろりのようにけむたくないし，どの部屋にもかんたんに持ち運びでできるから便利だ。でも魚やもちを焼けないのは残念だ。

そのあとにできたのが電気ごたつだ。電気ごたつは座ったままでスイッチを入れたり，温度をちょうせつしたりでるから，ほんとにべんりになったものだ。空気もよごれないし，どこへでも運べるからべんりだが，いろりにくらべるときゅうくつなものだ。



昔の道具

ところで、今わたしの部屋にはルームエアコンが取り付けられている。夏は冷房，冬は暖房だんぽうになる大変いい機械きかいだ。スイッチ一つでいろいろに使い分けられるのだから，本当にべんりになったものだ。

でも，樂をするのはいいが，たくさんのスイッチを使わなければならんし，お金もかかる。いろりのように，いく通りにも使えないのはざんねんだな。

しらべてみましょう

おじいさんのお話は，これでおしまいです。暖房器具だけでなく，ほかの道具もいろいろ変わってきています。調べてみましょう。

（３）三島村のむかしさがし

①しせきや記ねんひ

三島村には，むかしのようすを伝えてくれるものやたてももの（しせき），村の人びとのためにつくしてくれた人を記ねんするための記ねんひなどが見られます。

ア．それぞれの島にあるしせき

・^{ひじりだいみょう}聖大明神社（竹島）

島の西がわにあります。中には鏡が５面と仏ぞうが数体あります。入り口にある「かいじし」が神社を守っています。



聖大名神社

・^{あんとかてんのう}安徳天皇のはか（硫黄島）

三島小中学校の東にあります。^{げんじ}源氏に負けて硫黄島にきた^{へいけ}平家の安徳天皇と天皇とかんけいの深い人のはかがあるといわれています。



安徳天皇のはか

・^{くまの}熊野神社（硫黄島）

硫黄島のみなとのすぐ北にあります。むかし，平氏にこの島に流された^{しゅんかん}俊寛たちが，早く帰ることをいのってたてられたといわれています。



熊野神社

・^{ろくじぞう}六地藏（竹島）

竹島のあみだ堂^{どう}あとにあります。高さは，だいたい２mあります。ささの中にうまっていたものを１９７０年（昭和４５年）にほりおこして組み立てました。



六地藏

くろ お だいみょう
・黒尾大明神社（黒島）

大里地区にあります。400年ぐらい前にたてられました。海での安全をまもる神様がまつられています。



黒尾大明神社

・イバドンのはか（黒島）

片泊にあります。「イバドン」というのは、かまぐらから黒島の平家をたおしにきた源氏のさむらいです。弓の名人で、「大庭^{おおば}どん」とよばれていましたが、いつの間にかイバドンになりました。



イバドンのはか

しせきをしらべましょう

- ・しせきがある場所や、そのゆらいについてしらべましょう。

イ. それぞれの島にある記ねんひ

それぞれの島の学校や地いきには、学校がたてられたことやどうろができたこと、島ができたことなどを記ねんしてたてられた記ねんひがあります。



それぞれの島にある記ねんひ

記ねんひをしらべましょう

- ・自分の島のどこに記ねんひがあるのか、どのようなことを記ねんしてたてられたのかをしらべましょう。
- ・記ねんひがたてられたころのようすを地いきの人に聞きましょう。

② 行事やまつり

わたしたちの村には、むかしから伝わるいろいろな行事やおまつりがのこっています。お正月の行事，3月の^{せつく}節句，5月の^{せつく}節句，七夕まつり，おぼん（八月踊り），十五夜のつな引きそのほか神社のおまつりなどがあります。それぞれ，自分の家でするおまつりもあれば，地区の人たちがみんなで楽しむ行事もあります。村の人たちは，行事やおまつりをとおして，みんなでなかよくくらしてきたのです。

それぞれの地区で行われているものを一つずつ調べてみましょう。

ア ^{うまかたおど}馬方踊り

一月に竹島の^{ひじり}聖神社で行われる踊りです。ほうそう（てんねんとう）よけの踊りで，今から約200年前から始められたものです。神社のけいだいに，このときだけおねがいして来ていただいたお伊勢様^{いせさま}をまつり，この前で2日間踊りつづけます。家によってそれぞれ決まった席をとり，チグン（べんとう）を食べるなどして，とてもにぎわったということです。見物人をせいりするために「だんな」とよばれる男二人が，「東西^{ぼう}棒」という大えだをついて，のっしのっしと踊り場を見回ります。

50年くらい前までは，この2日間，学校も休みにしていたほどだったそうです。



竹島の馬方踊り

今は、昔のにぎわいはなく、チグンをもっていく人も少なく、せきもとらずに立ち見をしています。

イ はっさくたいこおど 八朔太鼓踊り

硫黄島に伝わる踊りです。

けいちよう
慶長3年（1598年）さ
むらい たいしょう 大将の ながはまし 長浜氏らが
薩摩のとのさまにしたがっ
て とよとみ ひでよし 豊臣秀吉の ちょうせん しゅつべい 朝鮮出兵に
さんか
参加していました。そして、
たたかいに勝って帰ってき



硫黄島の八朔太鼓踊り

たことを祝って硫黄 おおごんげん 大権現宮に ほうのう 奉納したのがこの踊りです。 やはた 矢旗をせ
負い、たいこをむねにつけ、白いはちまきをした踊り手十数人と、花笠 がさ
をつけた一人のかね打ちがいっしょになって踊ります。昔は、「北山神
社」「もろこしどん」で踊り、そのあと、島の中を踊ってまわっていま
した。これは、島のあくまを集めるという意味があり、さいごに海に
すてていました。今は、くまの 熊野神社の前で踊っています。

また、踊りのと中に頭に大きな面をかぶり、みのを着た人たちが出
てきます。そして、手に持った木のえだで、島の人たちの体をたたいて
まわります。これには、人びとの体の中に入りこんでいる悪いもの
を追い出そうという気持ちがこめられています。

この硫黄島の八朔太鼓踊りは、県の無形民俗文化財 みんぞく ざい してい に指定されてい
ます。

このほかに、九月踊り、1月7日のクセンボ、1月15日のやくば

らい， 8 月 1 5 日の夜に行われる^{はしたまつ}柱松などがあります。

ウ ^{めんおど}面踊り

この踊りは，大里に伝わる八月踊りの一つです。

踊り子は十数人が，思い思いのぼろの服を着て，腰にはひょうたんをぶらさげています。顔には，オニ，オカメ，ヒョットコ，カッパなどの，こわいような，おかしいような面をつけます。手には，すりこぎとしゃもじを持っています。

そして，「ヒョウ，ヒョウ」と，きみような声をあげながら，「ことしゃの分，来年まちやれ，道のこぐさに米がなる，アずいな，アずいな」などと，歌に合わせて，おもしろくおかしく踊ります。

これは，子どもやまごたちが，ますますさかえますように，また，田や畑の作物が，たくさんとれますようにと，いのるおまつりの踊りです。

この踊りは，面や踊りのしぐさなどに，なんとなく遠い南の国の踊りのような，ふしぎな感じを受けます。それで，もしかするととっても古いかおり高い踊りだったので



大里の面踊り

はないかと言われています。

大里小・中学校の子どもたちも，この「面踊り」をたやさないようにと，毎年れん習をして，運動会の際に発表をしています。また，

この踊りは、テレビで放送されたこともあります。

エ ^{ほんおど}盆踊り

片泊の踊りは、
ほとんどお盆に祖
先のたましいをな
ぐさめるために行
われます。種類も
多く、太鼓踊り、
笠踊り、^{くよう}供養踊り
などがありますが、



中心になっている

片泊の太鼓踊り

のは、太鼓踊りです。

はじめに男の人たちが、火の神前と地の神前で花笠をもって踊ります。これを「ババナラシ」といいますが、これをすませないと太鼓踊りはできないことになっています。太鼓踊りでは、カネ・ナカダイコ・ジウテ・ヘヤという役があり、役によって、女の人のかっこうをしたり、太鼓を持ったりします。踊り歌を歌いながら踊りますが、ならびかたも、たてになったり、まるくなったりするのです。

供養踊りは、太鼓踊りをする人たちが、手ぬぐいではちまきをして踊ります。昔は初盆の家を一けんずつまわってしていましたが、今は、学校の運動場で初盆の家の家族や親類えんじゃがゴザをしいてすわっている前におどっています。

地区の人びとは、この大切な盆踊りをいつまでものこしていけるように、盆踊り^{ほぞんかい}保存会を作って努力しているのです。

黒島流れと三島村

今からおよそ110年前の明治28年7月24日のことでした。近くを通った台風は、黒島の近くでかつおをとっていたなんせきもの漁船をそうなんさせ、たくさんの人々の命をうばいました。411人が亡くなったといえますから、大変な事故だったのです。

そのころのかつお漁船は、長さ17メートル、はば4メートルほどのはん船で、台風の進み方を知るためのきかいもなく、近づいていることに気づいたときにはひなんするひまがなくそうなんをかくごしなければならなかったといえます。

この事故でそうなんした人のほとんどは、片泊の塩手鼻・ユキノ瀬あたりに打ちよせられました。黒島の人びとはケガをした人、息たえだえの人をそれぞれ背負って高いがけをよじ登り、ようやく家につれて帰り、枕崎から助けの船が来るまで、食事の世話をしたり、ケガの手当てをしたりしました。村の人たちは、わずかにたくわえていたようじょうまい養生米（重病人が出たり、災害にあったりなどの非常時のためにたくわえている米）を家々から持ってきて食事にあてたのです。また、亡くなった人たちを丁重にとむらいました。

このときから、黒島の人々と枕崎の人々との交流が深くなり、黒島の人々が枕崎へいくと、ていねいにもてなしてくださり、つながりを深めたといえます。

この悲しい出来事を「黒島流れ」といいます。

3 これからの三島村

わたしたちの住む三島村は、まわりを海でかこまれています。そのため、いろいろと不便なことやこまったことがあります。鹿児島などへの行き来や、生活にひつような品物を運ぶには、主に船しかありません。また、わかい人が島を出て行くので、島に住む人数が毎年少なくなっています。それに、仕事をする場所が、とても少ないことなどです。でも、人びとは力を合わせて、自分たちのたいせつなふるさとの三島村をもっと住みよい所にしようと、くふうしています。

たとえば、平成13年、「みしま」が新しくなりました。それまでの船より、大きくなり、荷物や人をたくさん運べるようにしました。スピードも速くて、鹿児島までの時間がずいぶん短くなりました。大きな荷物などはクレーンでつみおろしていましたが、車やフォークリフトなどでじかに運べるようになりました。

また、村は、少しでも人口をふやすために、三島村に住みたい人のために住たくをたてたり、暮らしのお手伝いをするなど、うつり住みやすいようにしています。それから、いろいろな所で、たけのこなどのおみやげを売ったり、俊寛祭りやヨットレースのしょうかい、ジャンベのえんそうなどをして、三島村のよさをみんなに知ってもらうための活動もしています。平成16年には、硫黄島に、キャンプなど外での活動や学習をするための鹿児島市の施設「冒険ランドいおうじま」ができます。鹿児島から、たくさんのお友だちが勉強に来ることになっています。

三島村には大きな工場や会社はありませんが、たけのこ、つわぶき、シイタケ、つばき油など、ゆたかな自ぜんをり用して、三島村でしか

できないものを作ったり、しつのよい牛を育てたりしています。また、近くに魚のとれるよい場所があるので、港作りをしたり船を大きくしたりして、ぎょぎょうをさかんにしようとしています。

そのほか、三島のきれいな海やけしきをり用したかんこうにも、力を入れようと考えています。竹島では、海の中をさんぽする「スキューバダイビング」を新しく名物にしようという計画も進められています。

それから、わたしたちの生活につながりのある学校、しんりょう所、道路なども、もっとよくしようと計画を立てています。

みんなの工ふうやがんばりのおかげで、三島村は、昔とくらべるとずいぶん便利になり、くらしやすくなりました。これからも、ちえを出し力を合わせて、もっとすみよい村にしていきましょう。

これからの三島村を考えて

- ・ 住みよい三島村にするために、のこしたいことや変えたいことなどを話し合ってみましょう。
- ・ ^{みらい}未来の三島村のようすをそうぞうして、絵や文にまとめ発表会をしましょう。

〔年表〕

年 代		村のうつりかわり	
明治	16～20 年		竹島，硫黄島，大里，片泊に，寺子屋敷の学校ができた。
	2 2 年		市や町，村のきまりができて，十島村は，大島郡じつとうそんとなった。三島は，川辺郡のままだった。
	2 8 年		「黒島流れ」といって，多くの枕崎のかつお船が黒島おき沖でそうなんした。
	3 0 年		十島村（今の三島村をふくむ）は，川辺郡より分かれ，大島郡となった。
	3 5 年		硫黄島ゆうびん局ができた。
大正	4 年	おじ	3 つの島に青年くんれん所ができた。
昭和	5 年	い	村のお金で小学校（硫黄島じんじょう尋常小学校）が初めてできた。竹島，大里，片泊には，分校ができた。
	7 年	の	小学校に高等科ができた。（硫黄島じんじょう尋常高等小学校）
	8 年	ど	初めて，村の船「十島丸」ができた。
	9 年	も	海底火山がばく発して，昭和硫黄島ができた。
	1 0 年	の	青年学校ができた。（小学校に併設へいせつ）
	1 1 年	こ	黒島にネズミがはびこり大変だった。
和	1 6 年	ろ	村の船「金十丸」ができた。

昭和	19年	● 太平洋戦争が始まる。
	20年	● 台風で大里校の校しゃがたおれた。
	21年	● 8月15日、戦争は終わったが、船が来ないので、三島の人たちは、11月ごろまで戦争の終わったことを知らなかった。
	22年	● 10の島のうち、南の7つの島はアメリカ軍が治めることとなり、北の3島と分かれた。今の三島だけで、大島郡十島村とよびようになった。 (行政区は、鹿児島郡区)
	23年	● 役場を鹿児島市稲荷町に開庁した。 ● 2月11日、仮称「三島村」設立委員会が開かれた。この日を「建村日」とした。 ● 機帆船「三島丸」ができた。
	24年	● 大里と片泊の分校がいっしょになり、黒島小学校となった。 ● 硫黄島中学校ができた。竹島、大里、片泊は分校であった。 ● 初めて、村長と村議会議員の選挙が行われた。 ● 役場が今のところ（名山町）にうつった。
	25年	● 黒島小学校（大里）と片泊分校が分かれた。 ● 竹島分校が竹島小学校となった。 ● 三島村農業協同組合ができた。
	26年	● 硫黄島中学校が三島中学校となった。 ● 黒島小学校が大里小学校となった。
	27年	
	28年	

昭和	25年 26年	- 片泊分校が片泊小学校となった。 - 竹島，黒島にゆうびん局ができた。 - 硫黄島にしんりょう所ができた。 - 漁業協同組合ができた。
		4つの地区に，役場出張所ができた。 - 硫黄島に派出所ができた。（今は駐在所） - 南の7島が日本に返されるということで，分村と村名変更^{へんこう}について，住民の意見を聞くための投票が行われた。
	27年	- ルース台風でたくさんの家がたおれた。 - 南の7島が日本に返され「十島村」^{としまむら}となった。 - 村の名前「十島村」^{じつとうそん}を，「三島村」に変更した。 - 村の教育委員会ができた。 - 村の船「三幸丸」ができた。
		無線電話連絡所が硫黄島にできた。
		- 硫黄島に火力発電所ができた。 - 三島村と鹿児島市の間をむすぶせん用船として，「第2三幸丸」ができた。 - ネズミ駆除のため，黒島にイタチを入れた。 - 硫黄島で村体育祭が行われた。 - 三島小中学校の鉄きん校しゃができた。（小学校は，硫黄島小学校）
	29年 30年	分校から，竹島中学校，大里中学校，片泊中学校となった。
	31年	

昭 和	3 2 年		● 黒島の中里川に水力発電所ができた。 ● 竹島小学校に鉄きん校しゃができた。 ● 硫黄島小学校が三島小学校となった。 ● 竹島・片泊小学校で完全給食が始まった。 ● 硫黄島に一般加入電話がついた。 ● 大里・片泊間に自動車道が開通した。
	3 3 年		● 竹島に火力発電所ができた。
	3 4 年		● 映画「私は忘れない」の現地ロケが黒島で行われた。 ● 黒島にへき地しんりょう所ができた。
	3 6 年	おと	● 竹島，大里，片泊に電話が通じるようになった。 ● 大里にかんい水道ができた。
	3 7 年	う	● 竹島にかんい水道ができた。
	3 9 年	さ	● 硫黄島にかんい水道ができた。
	4 0 年	んの	● 片泊ゆうびん局ができた。 ● 三島小中学校で完全給食が始まった。 ● 大里小中学校に鉄きん校しゃができた。
	4 1 年	子ども	● 片泊にかんい水道ができた。 ● 大里小中学校で完全給食が始まった。 ● 「第 2 三幸丸」が月 6 回，3 つの島を回るようになった。
	4 3 年	ろ	● 鹿児島市名山町に新しい村役場ができた。
	4 4 年		● 大里で，はたおり（大島つむぎ）が始まった。
	4 6 年		● 竹島にへき地しんりょう所ができた。

昭 和	5 6 年	• 大里・片泊間の村道が県道になった。
	5 8 年	• 村創立 3 5 周年を記念して村民憲章ができた。 • 大里にしんりょう所ができた。
	5 9 年	• 竹島，大里，片泊の多くの家に電話がついた。
	6 0 年	• 村章・村の木（つばき）・村の花（まる葉さつき）が決まった。 • 台風 1 0 号が片泊をおそった。
	6 1 年	• 硫黄島に三島開発総合センターにできた。
	6 2 年	• 硫黄島の八朔太鼓踊りが，つくば万博でひろうされた。
	6 3 年	• 村船「みしま」がさらに新しくなった。それを祝って，第 1 回村民運動会が硫黄島で行われた。
平 成	元年	• 硫黄島 1 2 号が片泊港のてい防をこわした。 • 硫黄岳が 5 3 年ぶりにふんえんをあげた。
	2 年	• 第 1 回三島村文化祭が硫黄島で行われた。
	4 年	• 硫黄島で硫黄島音楽祭が行われた。
	6 年	• 硫黄島の八朔太鼓踊りが県の文化財に指定された。
		• 第 1 回ミシマカップヨットレースが行われた。 • 大里ふるさとセンターができた。 • 三島村歌「夢光る」，イメージソング「三島旅情^{りょじょう}」が作られた。

平成	7 年	● 片泊ふれあいセンターができた。 ● 硫黄島の飛行場が，日本初の村営飛行場としてオープンした。 ● ママディ・ケイタさんの硫黄島公演が行われた。 ● 竹島にあいあい会館ができた。 ● 記録的な集中ごう雨で全島がひ害にあった。
	8 年	● 大里地区にテレビ共同アンテナが建てられた。 ● 歌舞伎「俊寛」公演が硫黄島で行われた。 ● 片泊が台風 3 号のよる大きなひ害をうけた。
	9 年	● 黒島地区にごみ焼きやくしせつがたてられた。 ● 竹島地区にテレビ共同アンテナがたてられた。 ● しおかぜ留学制度が始まった。
	10 年	● 竹島に生ごみしよりしせつができた。 ● 第 1 回俊寛まつりが行われた。
	13 年	● 新船「みしま」ができた。